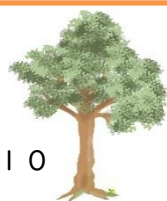




豊小だより

2019.9.10



全国学力・学習状況調査から見る豊小は？

新聞やニュースでもその結果が発表され、福井県は小・中学校全教科（小学校は国語・算数、中学校は国語・数学・英語）においてトップクラスであると報じられた「全国学力・学習状況調査」。本校でも、6年生が調査に参加しました。その結果から、本校の優れている点、課題と改善策についてご報告します。調査対象は6年生ですが、本校での教育活動の積み重ねの結果として捉え、学校全体で指導改善に役立てたいと考えています。調査は2教科の他、学習状況についてアンケートに答える児童質問紙もありました。それぞれについてご報告します。

国語

<優れているところ>

- ・自分が知りたいことが書かれている箇所を本の目次から探すこと
- ・相手の話を聞いて、自分の理解が合っているか質問すること

<課題があるところ>

- ・自分の考えの理由を複数の文章から探して書くこと
- ・意味を考えて同音異義語を正しく書くこと
- ・接続語を使って長い文を二つに分けて書くこと



改善策

ある程度まとまった量の文章を書く力が身に付くよう指導の改善を図ります。そのため、型や条件に従って書く練習をする場を設けます。例えば、新聞を読んで分かったことや感想を書いたり、答えの求め方を説明したり、授業の振り返りを書いたりするときに、示されたキーワードを使って書く学習を継続的にを行います。また、その学年で獲得しておくべき語彙を使って話したり、書いたりする場を意図的に設けます。

同じ音で書き誤りやすい漢字や熟語について、辞書で用例を見比べたり、新聞からその熟語が使われている文を見つけたり、熟語を使って文づくりをしたりして、使い分けができるよう繰り返し指導します。併せて、学年に応じて国語辞典の利用・活用を進めます。

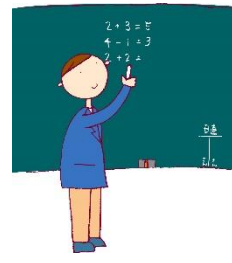
算数

<優れているところ>

- ・棒グラフから数値の変化を読み取ること
- ・順番を考えてかかる時間を求めるために必要な事柄を選ぶこと

<課題があるところ>

- ・図形の面積を求める式から、求め方を説明すること
- ・割り算に関して成り立つ性質を文章で書くこと
- ・示されている割り算が何を求める式か答えること



改善策

これまで以上に、答えを求める過程を大切に学習を進めます。単に立式して答えを求めるだけでなく、なぜそのような式を立てたのか説明したり、友達が考えた式の意味を考えたりする活動を多く取り入れます。「差」「和」「円」「〇を〇で割る」「〇に〇をかける」「一つ分の〇〇」「一人当たりの」などの算数用語を適切に使って説明できるよう低学年から系統的に指導します。

児童質問紙*「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた割合を全国や県と比較しました

<優れているところ>

- ・毎日、同じくらの時刻に寝ている・起きている
- ・学校に行くのは楽しい
- ・国語の勉強は大切だと思う・国語の授業がよく分かる
- ・算数の勉強は大切だと思う・算数の学習は将来役に立つと思う

<課題があるところ>

- ・家で1日当たり1時間以上勉強をしている
- ・本を読んだり、借ったりするために、学校図書館や地域の図書館に月に1回以上行く
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う
- ・自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している



改善策

これまでの家庭での学習の時間や自学（自分で課題を決めて取り組む自主的な学習）の内容について、子供たちと見直しをします。

家庭での学習の時間は、各学年30分+（5分～10分×学年）を目安とします。

1年生は30分+（5分～10分×1）で35～40分

2年生は30分+（5分～10分×2）で40～50分……という具合に計算すると、

3年生は45～60分、4年生は50～70分、5年生は55～80分、6年生は60～90分となります。宿題を含め、これくらいの時間は机に向かって学習をする習慣を付けていけるよう、子供たちに働きかけます。

また、自学では

- ・計算や漢字、音読など自分が苦手とする、あるいは次回のテストで間違いを少なくしたいと思っていること
- ・今日学校で学習したことのまとめ

その他、

- ・自由研究や調べ学習
- ・読書
- ・新聞づくり、日記、物語の創作

など自分の興味・関心のあることを継続的に取り組むものなど、自分でいろいろと試しながら自分に合った学習内容ややり方を探せるよう指導していきます。

子供たちが集中して学習に向かうことができるよう、その時間は家族もテレビを消したり、いっしょに読書をしたり、夕食を食べる時間などのスケジュールをいっしょに考えたりするなど、子供たちのサポートをぜひお願いします。そして、自学ノートでどんな学習をしているのか、見てください。お子様ののびのびを目にすることができるとと思います。

また、読書習慣は小学生のうちに身に付けておきたい「力」です。本や文章を読むことに抵抗があると、なかなか情報を収集したり、活用したりする力を身に付けることが難しくなります。子供たちの様子を見てみると、読書が好きな子はどんどん読み、嫌いな子は全く読まない、と差が激しく、読んでいる本にも偏り（物語だけ、歴史漫画だけ、図鑑だけなど）があるようです。学校では、図書室の利用を進め、様々なジャンルの本に親しむ機会を増やしていきたいと計画しています。朝の活動で読書タイムやボランティアの方による読み聞かせを行うだけでなく、常に本バッグの中に本を入れておき、ちょっとした時間に本を手にとって読むことも推奨しています。ご家庭でも、休日図書館に出かけ、お子様といっしょに本を借りたり、同じ本を読んで感想を交流したりする機会をぜひ取っていただけたらと思います。

いろいろな本や新聞、ニュース、海外や自然、科学の不思議を取り上げた番組など、子供たちが学校外で目にし、耳にしたことに興味をもち、思いをつぶやいたり、周りの大人に疑問を投げかけたりすることもあると思います。ちょっと手を止め、耳を傾け、いっしょに不思議がったり、質問に答えたりすることで、子供たちの思考力・判断力・表現力が広がり、深まるきっかけになります。子供たちがご家庭で話題にしたことが、学校での学びに生きてきますので、ぜひそのような機会をつくっていただけたらと思います。





花堂子供相撲大会をのぞいて来ました

9月1日（日）に第29回花堂子供相撲大会が熊野神社境内で開かれました。来賓としてお招きいただいたので、参観してきました。幼児から小学生まで62名が参加し、個人戦とトーナメント戦の取組が行われました。取組の前には木田神社の宮司様による神事が行われました。祝詞が読み上げられ、神聖な雰囲気の子供たちも頭（こうべ）を垂れ、神妙な面持ちで相撲の神様をお迎えしていました。

取組に参加する子供たちは全員、地域の方にまわしを締めてもらい、学年ごとに東西に分かれて対戦していききました。土俵に入ってから礼や蹲踞（そんきょ）の姿勢など、相撲独特の作法も習いました。トーナメント戦での決勝では、高らかに力塩をまき、取組を始めました。

普段ぶつかり合って相手と組み合い、自分の精一杯の力で相手を倒すなんてことはないのに、最初は戸惑っていた子供たちも、決勝ともなると、相手の息と力を全身で感じ、それに負けまいと押したり、まわしを持ってひねったりと必死にがんばっていました。地域の方々からの声援を受け、がんばったものの負けてしまった子の顔が歪み、泣き出しそうになる場面もあり、学校では見られない姿を見ることができました。地域の方々に育てていただいている子供たちが、何年後かには、地域の子供たちの育成に貢献している姿を想像しながら、頼もしい豆力士たちに声援を送ることができました。

